

第2章 実態調査の結果概要

2-1 住民アンケート調査結果の概要

(1) 調査概要

町民の日常的な交通行動、公共交通の利用状況と利用意向、費用負担についての考え方を把握し、公共交通利用のニーズ、今後のあり方等を検討するための基礎資料とするため、アンケート調査を実施しました。2,500票を配布し、回収数1,208票、回収率48.3%でした。

表. 調査方法等の概要

調査期間	平成26年8月15日(金)～8月27日(水)(9月10日まで回収)
調査対象	15歳以上の広陵町在住者
調査方法	郵送による配布・回収
配布数	2,500票
回収数【回収率】	1,208票【回収率48.3%】

表. 地区別配付回収状況

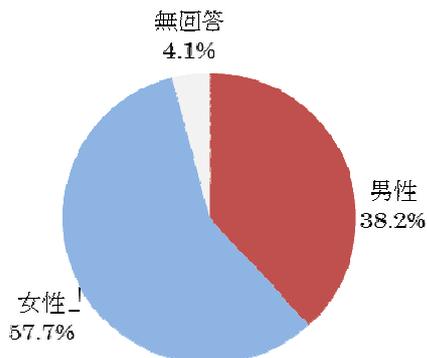
	人口(人)	世帯数(世帯)	配布数(票)	回収数(票)	回収率(%)
西小学校区	9,576	3,440	686	283	41.25
東小学校区	5,018	1,831	315	129	40.95
北小学校区	4,521	1,628	384	175	45.57
真美ヶ丘第一小学校区	6,706	2,379	480	241	50.20
真美ヶ丘第二小学校区	8,941	3,006	635	294	46.29
不明				86	
合計	34,762	12,284	2,500	1,208	48.32

(2) 回答者の属性

女性がやや多く、年齢は20歳代まではやや少ないですが、30歳以上では概ね均等に回答されています。

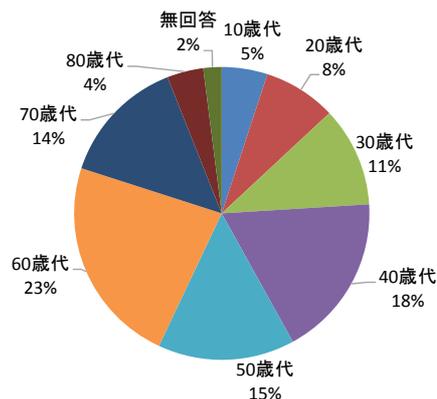
※Nは回答数

■性別



N=1208

■年齢



N=1208

自動車免許については、全体で約 22%の人が免許を持っていません。なかでも、10 歳代の約 85.9%、70 歳代の約 42.9%、80 歳以上の約 79.2%が免許を持っていないことから、これらの世代での公共交通需要が高いものと思われます。

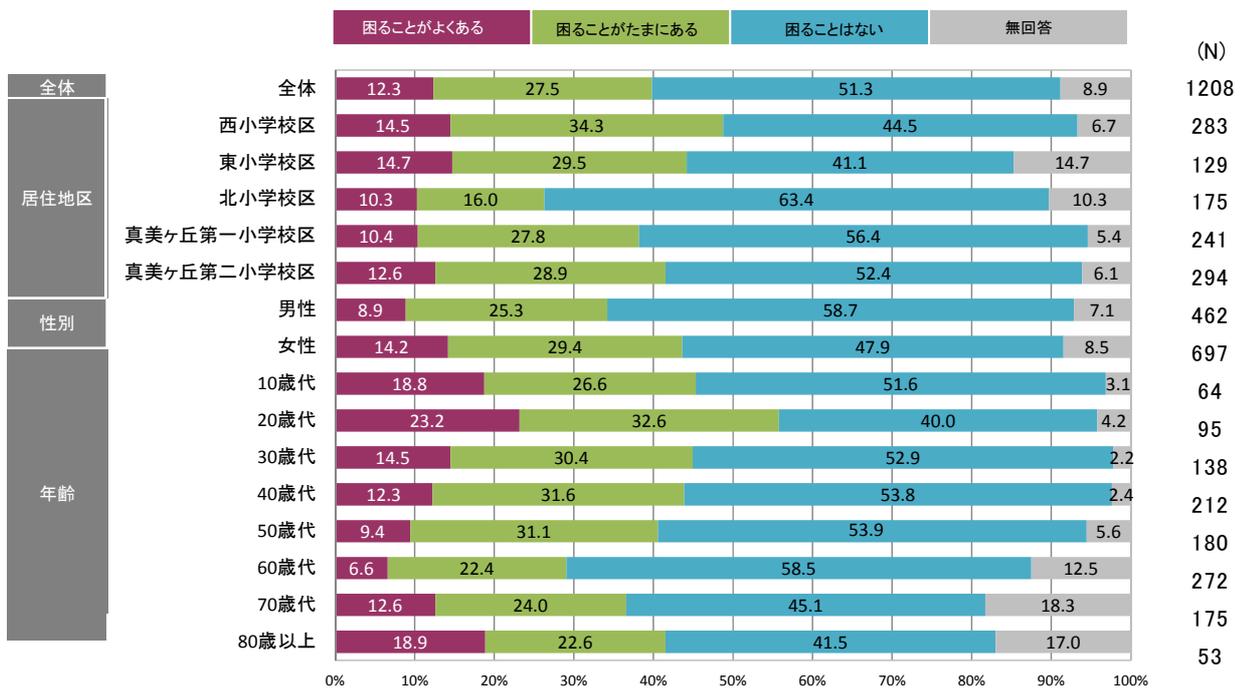
図. 自動車運転免許証の有無（属性別）



(3) 外出時に困ること

公共交通が利用できない、あるいは不便なので「困ることがある」「困ることがたまにある」という人が合わせて約 40%にもなります。居住地区や年代による差はあまり大きくないことから、全世代について公共交通サービスの充実が必要といえます。

図. 公共交通が不便なために困ることの有無（属性別）



(4) 鉄道について

鉄道を日常的に利用しているのは約 24%であり、10 歳代、20 歳代に多く、利用駅は最寄りの駅が多くなっています。

鉄道を利用していない人のうち、鉄道駅までのバスが便利になったら利用するという人が約 35%もあります。鉄道利用促進のためには、バスの鉄道駅接続が重要な要素となります。

図. 鉄道の利用状況（属性別）

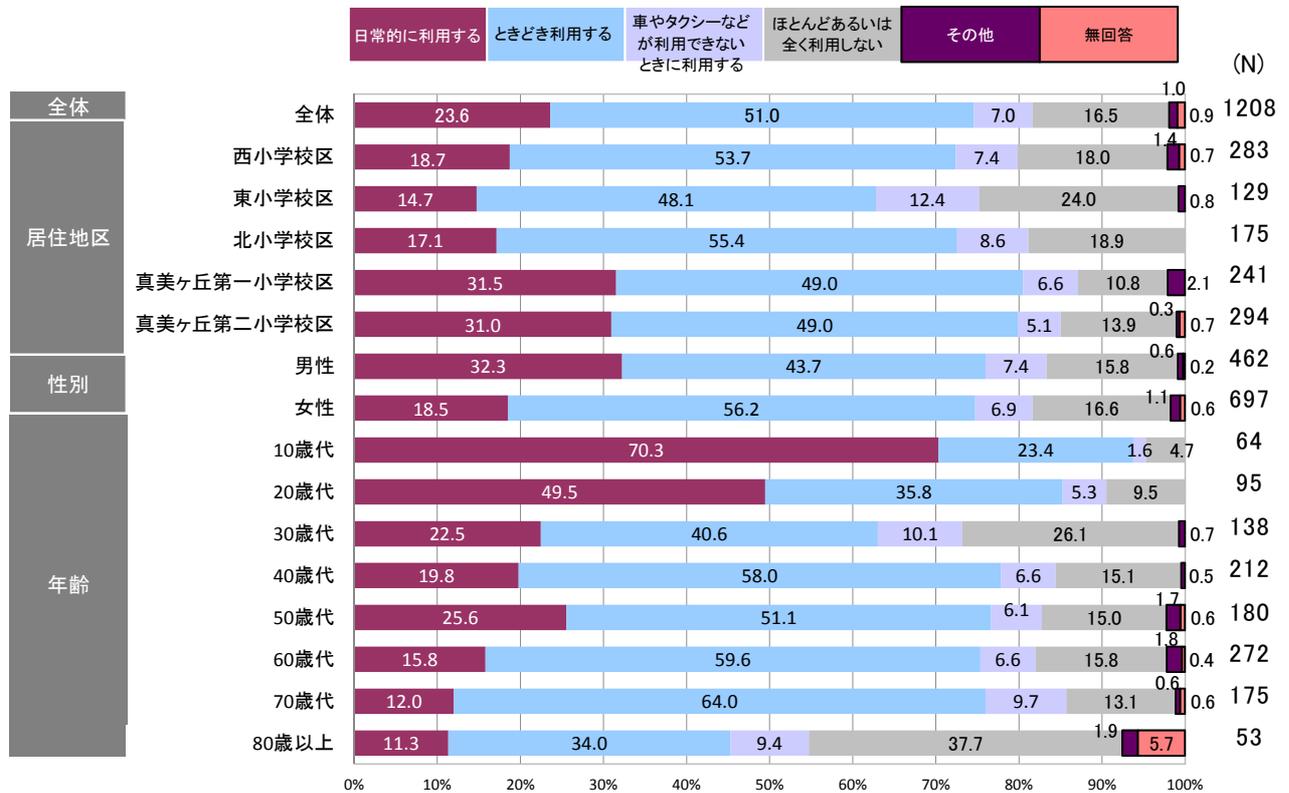
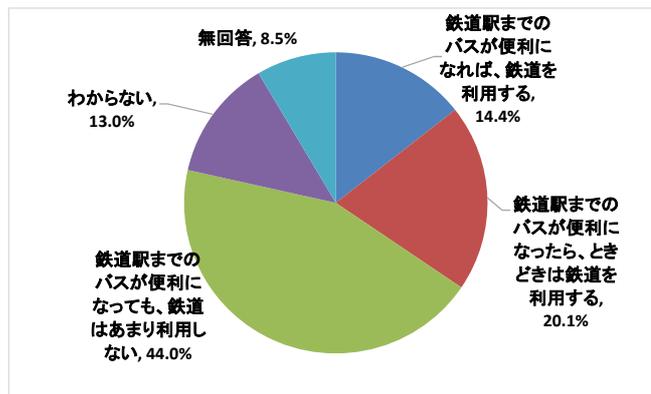


図. 鉄道利用の条件（鉄道をほとんどあるいは全く利用しないと回答された方を対象）



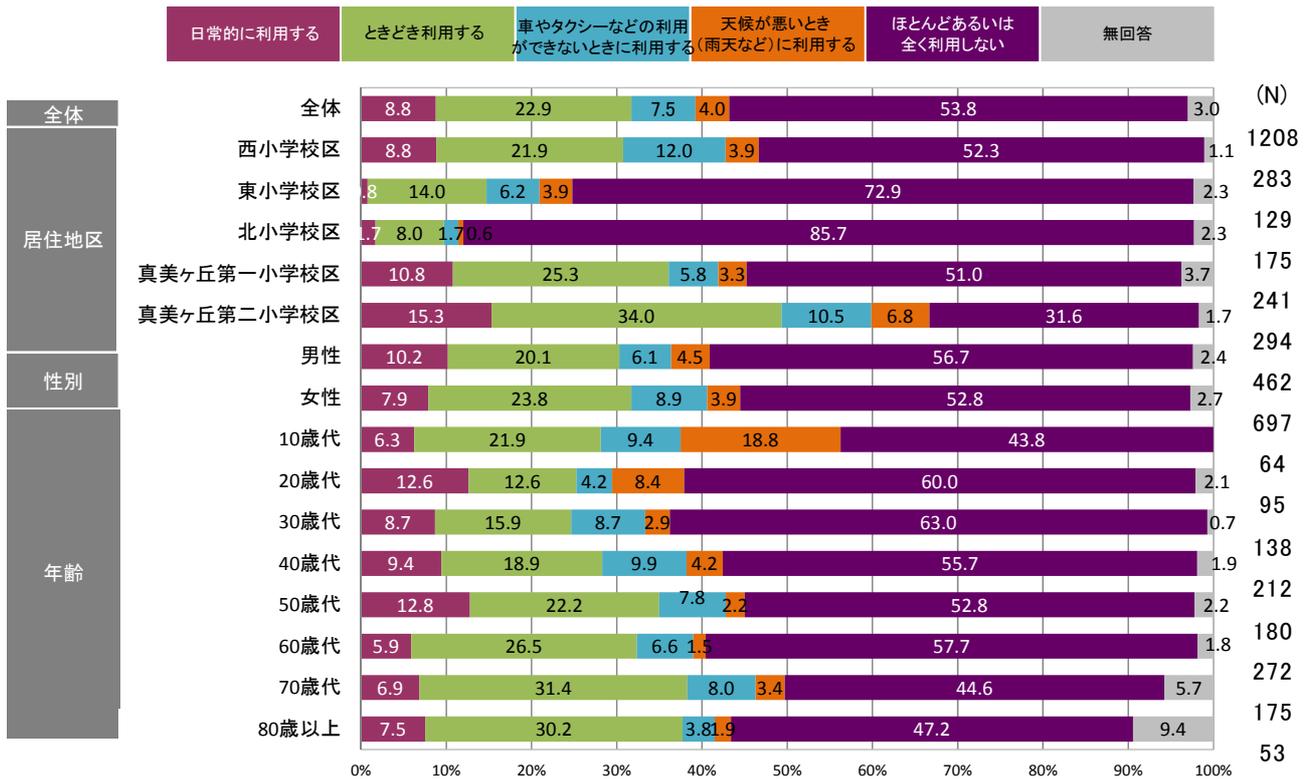
N=284

(5) バス利用について

①利用状況

バスを日常的に利用している人は約9%ですが、時々あるいは天候の悪いとき等に利用する人を含めると約43%にもなり、利用率はかなり高いといえます。ただし、路線バスが運行している真美ヶ丘地区の利用率の高さに比べ、広陵元気号しか運行していない東・北地区では利用する人は12~24%と少なくなっています。

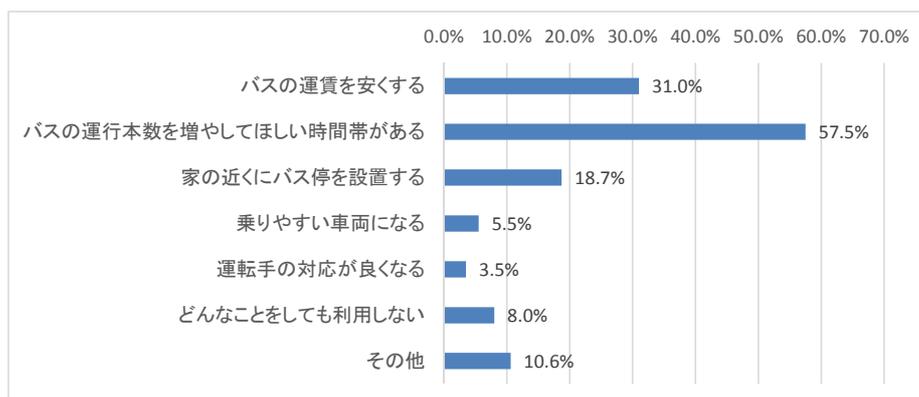
図. バスの利用状況（属性別）



②利用促進

バスを利用するために改善してほしいことで最も多いのが「運行本数の増便」であり、次いで「運賃の低廉化」となっています。特に広陵元気号は、従前は、1日の運行本数が片方向3便のみなので、運行本数の増便が課題といえます。

図. バスを利用するために改善して欲しいこと（複数回答）

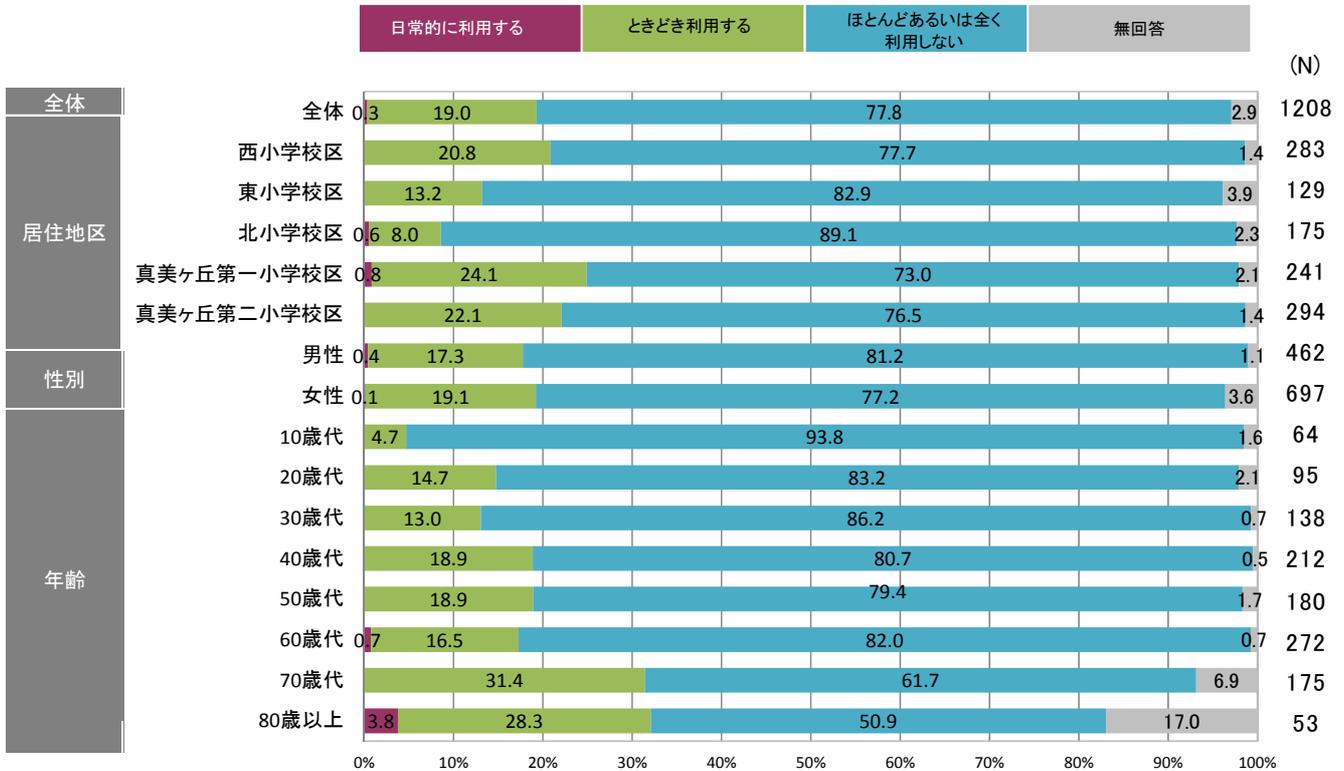


(6) タクシー利用について

日常的あるいはときどき利用する人は約19%で、主に、大和高田駅、五位堂駅、町内の診療所・病院へのアクセスとして利用されています。

70歳以上では利用率が30%程度と高く、高齢者の重要な交通手段になっています。

図. タクシーの利用状況（属性別）



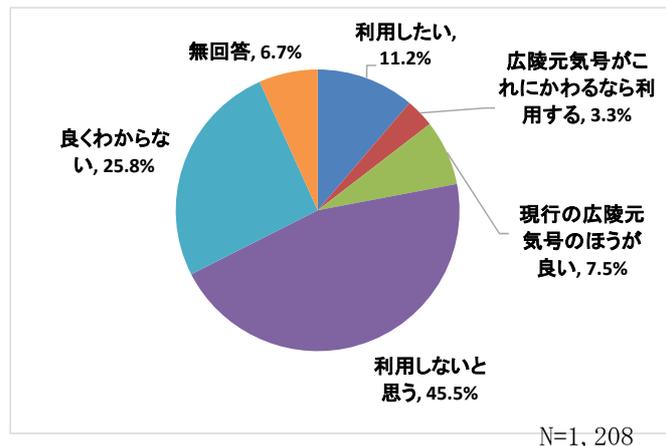
(7) 公共交通を利用したい行き先について

鉄道駅（大和高田駅、五位堂駅、箸尾駅）、公共施設（さわやかホール、中央公民館、図書館）、病院、スーパーとなっています。病院は、町内の診療所・病院が多く、次いで国保中央病院となっています。

(8) デマンド交通について

デマンド交通の利用意向は約15%で、70歳以上の高齢者では約20%程度とやや高くなりますが、利用しない人が全体で約46%、高齢者でもほぼ同様であり、利用意向はあまり高くないといえます。

図. デマンド交通の利用について



(9) 広陵元気号について

広陵元気号が運行されていることは、約83%の人が知っています。利用したことがあるのは約8%ですが、70歳以上になると約15%程度と高くなり、高齢者の重要な交通手段になっています。

利用したことがない理由で多いのは、「行きたい場所に運行していない」「時間がかかる」「行きたい時間に運行がない」であり、利用促進のためには、ルート、運行本数の改善が必要です。

図. 広陵元気号の運行について

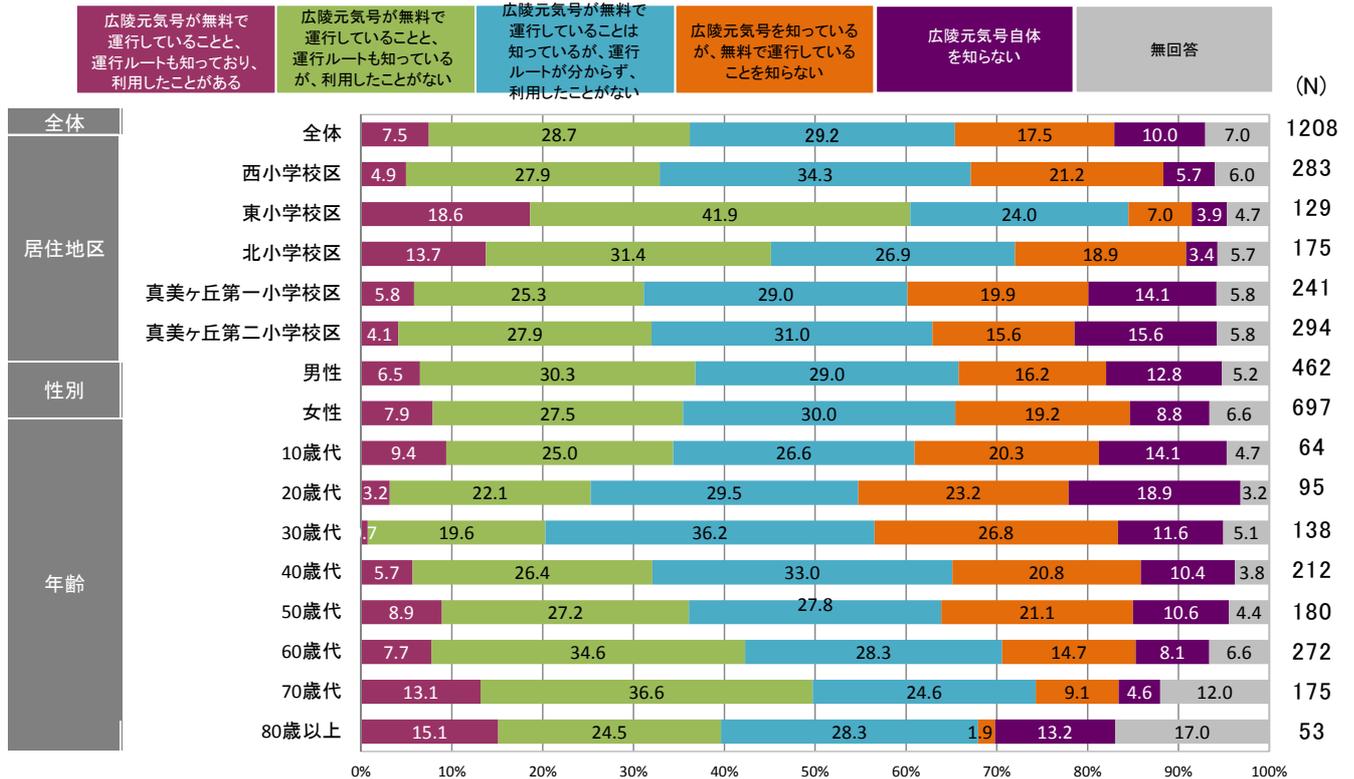
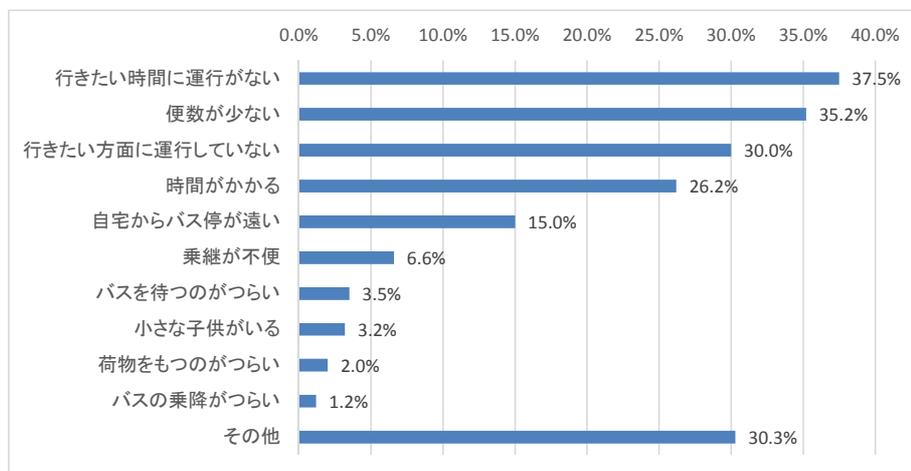


図. 広陵元気号を利用したことがない理由

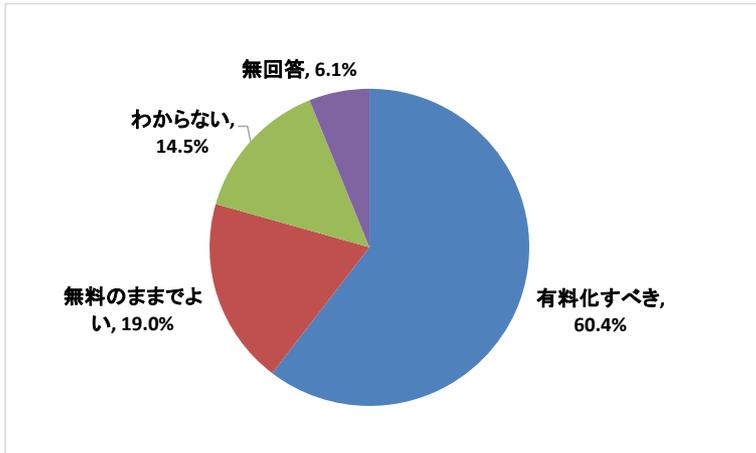
(広陵元気号を知っているが、利用したことがない人を対象)



N=1, 176

広陵元気号の運賃は現在無料ですが、「有料化すべき」が約 60%、「無料のままでよい」が約 19%となっており、有料化に対する理解が概ね得られているといえます。

図. 広陵元気号の運賃について

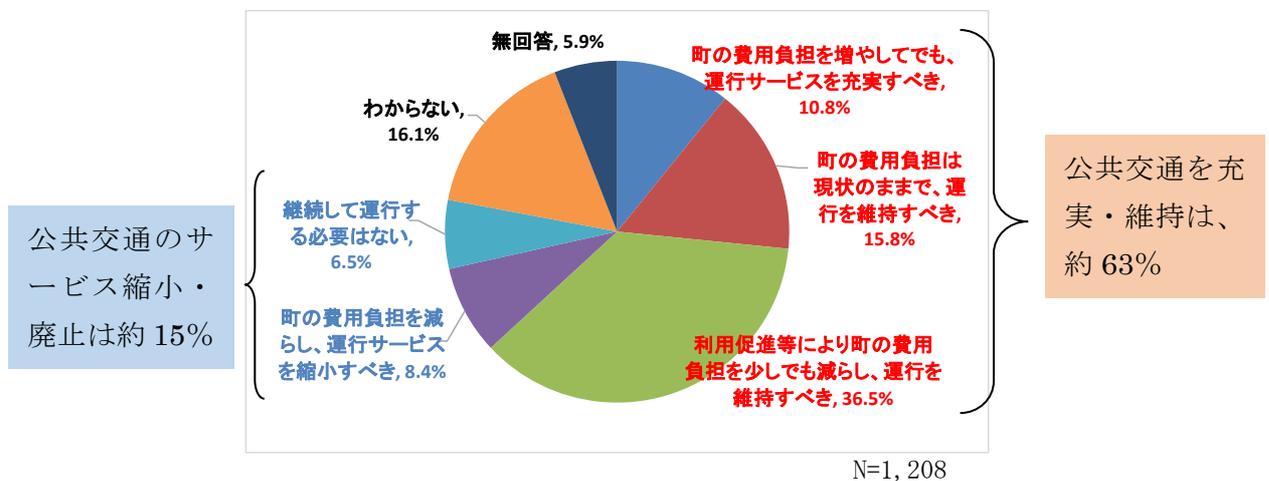


N=1, 208

(10) 今後の公共交通について

公共交通の運行を充実あるいは維持すべきという意見は約 63%、サービスの縮小・廃止は約 15%であり、今後も維持・充実することが期待されています。

図. 公共交通の費用負担と維持について



N=1, 208

2-2 広陵元気号利用者アンケート調査結果の概要

(1) 調査概要

利用者を対象にアンケート調査を実施しました。アンケート回収数は114票でした。

表. 調査方法等の概要

調査期間	平成26年8月15日(金)～8月27日(水)(9月10日まで回収)
調査対象	広陵元気号利用者
調査方法	バス車内でのアンケート配布・回収
回答数	114票

(2) 回答者の属性

性別では女性が約62%、年齢別では60歳以上が約64%となっています。

図. 性別

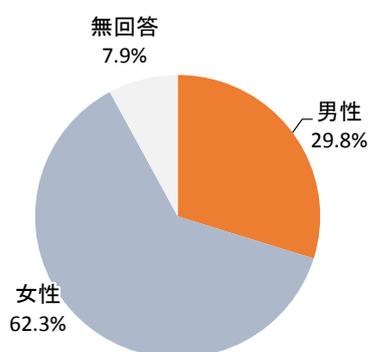
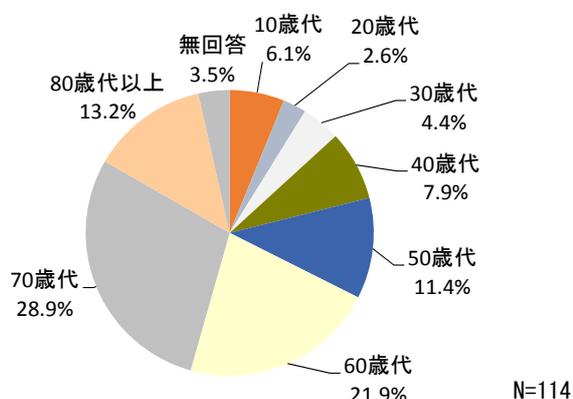


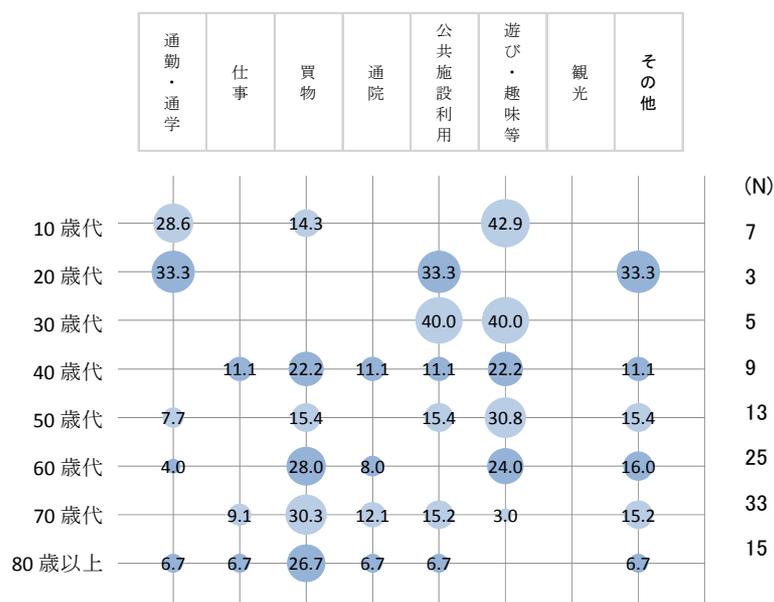
図. 年齢別



(3) 利用目的

10歳代・20歳代では通学・遊び・公共施設利用、40歳以上では買い物が多くなっており、年代によって利用目的が異なります。

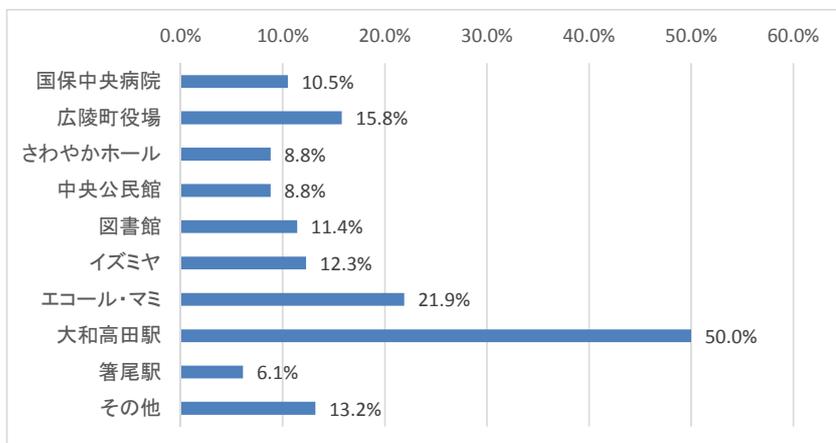
図. 利用目的



(4) 行き先

行き先で最も多いのは、大和高田駅（約 50%）、エコール・マミ（約 22%）となっており、バス停乗降者数のデータと概ね合致しています。

図. 行き先

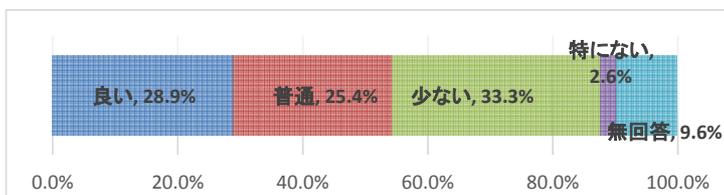


(5) 運行サービスの評価

運行本数、行き先は「良い・便利」あるいは「普通」という人が合わせて半数以上を占めており、一定程度満足されていますが、運行本数については、「少ない」という人が約 33%あり、10 時台を中心に増便要望があります。

図. 運行サービスの評価

◇運行本数



◇行き先

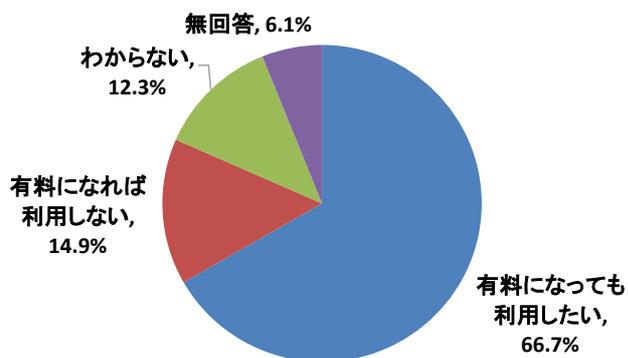


(6) 運賃有料化について

有料になっても利用したい人が約 67%、有料になったら利用しない人は約 15%であり、有料化については一定の理解が得られているといえます。

その場合の料金は、100 円が最も多く（回答者の約 65%）、ついで 200 円（25%）となっています。

図. 有料化について



2-3 まとめ

住民アンケート調査、広陵元気号利用者アンケート調査の結果は、以下のようにまとめられます。

- 全体で約 22%の人が自動車運転免許を持っていません（特に 10 歳代と高齢者）。このため、公共交通が不便なため、困ることがあるという人が約 40%にもなります。
- 鉄道を利用していない人のうち、鉄道駅までのバスが便利になったら利用するという人が約 35%もあり、バスと鉄道の連携が重要です。
- デマンド交通については、利用要望が少ないといえます。
- 公共交通の充実、維持を望む意見が約 63%あり、縮小・廃止の約 15%に比べて多く、充実にむけた取り組みが必要です。
- 広陵元気号は主に高齢者の買い物等に利用されていますが、利用者では運行便数の改善要望が多く、利用していない町民では運行便数とルートに対する改善要望が高くなっていることから、これらの改善を図ることが利用率の向上につながると考えられます。
- 広陵元気号は現在無料運行していますが、利用者、町民ともに有料にすべきという人が 6 割以上あり、有料化することで、それに見合った運行サービスの向上が期待されています。